

「西知多リハビリテーション病院における業務上の工夫」

西知多リハビリテーション病院 尾内一如

2015年5月の西知多リハビリテーション病院（以下、西リハ）開院にあたり、世田谷記念病院の酒匂先生が構築した回復期リハビリテーション病院のシステムを参考にして、いくつかの業務上の工夫を行なった。主な工夫を3つ紹介する。

(1)入院時業務

知多リハでは梶原院長が外来で患者および家族と面談・評価し、リハビリ処方箋を作成する。その後、病棟スタッフ（看護師またはケアワーカー）が患者さんと家族を病棟に案内し、問診をとる。一方、西リハでは、最初に病棟スタッフが患者さんと家族を病棟に案内し、問診をとる。その後、主治医、病棟スタッフ、PT、OT、ST、薬剤師、栄養士、支援相談員（以下MSW）が集まり、前医からの画像を全員で閲覧、脳CTやMRIがあれば、病変部位から予想される障害の程度や種類を主治医が説明する。また合併疾患があれば、入院生活やリハビリを行なう上での医学的な注意点を説明する。その後、病棟スタッフからの問診結果報告を聞いてから、全員一緒に病室の患者さんと家族を訪室する。病室にてPT、OT、STがそれぞれ現時点の機能をチェックする。具体的に、脳出血後の右片麻痺、失語症、嚥下障害がある患者を例に挙げる。まず、PTが床上の動き、車椅子への移乗、坐位、立位、歩行機能をチェックする。次にOTがトイレ動作、手洗い動作などをチェックする。最後に、STが嚥下、構音、言語機能をチェックする。その後、食事の種類や形態、カロリーについては栄養士、前医からの薬については薬剤師がそれぞれチェックする。最後にMSWが家族構成、自宅の状況などを説明する。以上を踏まえて、入院予定期間、リハビリ内容、リハビリの目標を決定し、入院診療計画書、リハビリ処方箋を作成する。患者さんと家族に目標と入院予定期間を説明し、入院診療計画書にサインをもらう。

以上、スタッフが集まってからサインをもらうまでに要する時間は30分くらいである。短時間で

行うために、ファイルメーカーの中に新規入院患者用のヒナガタとなるフォーマットを作っておき、入力は極力選択枝から選べるように工夫している。

(2)病床会議

急性期病院からMSWに転院依頼があった場合、病床会議を開き、入院の可否、入院の期日を相談する。参加者は医師、看護師、リハスタッフ、事務担当以外に、薬剤師、栄養士も入る。特に高額な薬剤投与患者の場合、薬剤師の意見が重要になる。以前の知多リハでは、週2回のみ病床会議を開催していた。しかし、依頼は不定期で入るため、対応の遅れは入院までの期間が延びる原因になる。西リハでは月曜日から金曜日まで毎日病床会議を行うことに変更し、急性期病院からの迅速な転院が可能になった。

(3)ファイルメーカーを使ったスケジュール管理

西リハ全職種の予定表をファイルメーカーに入力してお互いのスケジュールを閲覧している。よく閲覧されているのは、新規入院、医師面談予定、病床会議の有無（以上MSWが入力）、リハビリカンファレンス予定（リハスタッフが入力）、医師不在予定、土曜日出勤医師名（以上、医師が入力）入院患者に関する病棟スタッフからの申し送りなどである。

最後に、合同評価に関してスタッフと患者・家族にアンケートをとった。その結果、おおむね好意的な意見が集まったが、改善の余地もあると思われた。